

**テーマ：景気動向指数（2016年12月）の予測**

発表日：2017年1月31日（火）

～先行指数が大幅改善～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## ○景気は回復基調

内閣府から2月7日に公表される2016年12月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.1ポイントと予想する<sup>1</sup>。ほぼ横ばいにとどまるが、9月が+0.8ポイント、10月が+1.0ポイント、11月が+1.5ポイントと高い伸びが続いていたことの反動とみられ、問題はない。C I一致指数は上昇傾向にあると評価してよいだろう。これは、10-12月期の鉱工業生産が増産ペースを加速させていることとも整合的だ。なお、12月の内訳では、投資財出荷指数、卸売業販売額、小売業販売額などがマイナス寄与の一方、生産財出荷指数や有効求人倍率などがプラス寄与となり、全体では概ね横ばいになったとみられる。

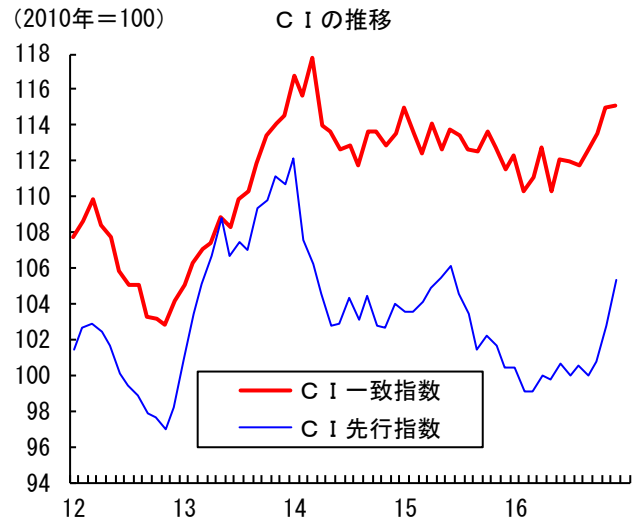
また、12月のC I先行指数は前月差+2.7ポイントと予想する。3ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も非常に大きい。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下

していたが、16年2月頃下げ止まり、足元では持ち直しに転じている。先行指数が大きく上昇していることは、景気にとって明るい材料といえるだろう。なお、12月の内訳では、新規求人数や消費者態度指数、東証株価指数、日経商品指数などの押し上げが大きかったとみられる。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は、3ヶ月連続で「改善」が予想される。「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が回復基調にあることがC I一致指数からも確認されていることになる。

## ○中小企業出荷指数の作成が休止に

中小企業庁は1月24日に、規模別製造工業生産指数（中小企業製造工業生産指数）の作成を休止すると発表した（2月16日公表の12月分確報が最後）。この統計のなかの中小企業出荷指数（製造業）は、C I一致指数の採用系列であるため、この作成休止によって景気動向指数にも影響が出ることになる。現在、内閣府が対応を検討中であり、実際の対応が決まればHP等で公表するとのことである。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2016年12月は第一生命経済研究所による予測値

<sup>1</sup> 現時点で未公表の中小企業出荷指数は筆者が仮置きした。